

広報

みしま

2020

6

June
No. 328



田植えて楽しいな！
三島小学校 田んぼの学校

新型コロナウイルス感染症対策のための 温かいご寄付ありがとうございました

新型コロナウイルス感染症対策のため、町に多くのご寄付が寄せられました。マスクは町内の各世帯や福祉施設等に配布させていただきました。寄付金は新型コロナウイルス対策に使用させていただきます。

ご寄付をいただいた皆様、ありがとうございました。

滝谷建設工業(株)がマスクを寄贈 (大人用 4,000 枚・子供用 4,000 枚)

4月27日、新型コロナウイルス感染症予防のため、滝谷建設工業(株)がマスクを寄贈しました。田中智仁代表取締役社長と板橋康宏取締役営業部長が来庁され、矢澤町長にマスクを手渡しました。



マスクを寄贈した田中智仁代表取締役社長(写真中央)

五十嵐勝男さんが マスク 20,000 枚を寄贈

5月14日、五十嵐勝男さん(有限会社ドラッグ・イガラシ代表取締役)がマスクを寄贈しました。「町民の皆さんの感染予防のためにご使用ください」と述べ、矢澤町長にマスクを手渡しました。



矢澤町長にマスクを手渡す五十嵐勝男さん

三島町商工会青年部が 保育所、小・中学校にマスクを寄贈

5月1日、三島町商工会青年部が三島保育所、三島小・中学校に布マスク87枚を寄贈しました。布川孝宏部長は「子供たちの感染予防のために使用してください」と述べ、マスクを贈呈しました。



マスクを寄贈した布川孝宏部長(後列右から3番目)

小柴芳郎さんが寄付金を贈呈

5月11日、小柴芳郎さん(西方)が、町に寄付金を贈呈しました。「新型コロナウイルス対策にお役立てください」と述べられ、矢澤町長に目録を手渡しました。



矢澤町長に目録を手渡す小柴芳郎さん

【マスク寄贈】

滝谷建設工業(株) 代表取締役 田中 智仁 様
五十嵐 勝男 様 (有)ドラッグ・イガラシ代表取締役
三島町商工会青年部 部長 布川 孝宏 様
住友生命保険相互会社 福島支社長 柿木田 修 様
福島県地域おこし協力隊 徐 銓軼(ジョ センイ)様

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します

【寄付金】

滝谷建設工業(株) 代表取締役 田中 智仁 様
(株)TKC 代表取締役社長 飯塚 真規 様
西方 小柴 芳郎 様

新型コロナウイルス対策意見交換会

内堀雅雄福島県知事とテレビ会議形式で実施

5月28日、県と町を結んでの新型コロナウイルス対策意見交換会がテレビ会議形式で実施されました。矢澤町長から、町のこれまでの新型コロナウイルス対策への取り組みを説明し、内堀知事は「ウイルスとの戦いは長期戦になると見込まれます。新しい生活様式の定着や各施設等での感染防止対策を引き続きお願いします」と述べられました。新型コロナウイルス感染防止のため、テレビ会議システムを使用した初めての試みとなりましたが、テレビ会議のメリットも実感できる有意義な機会となりました。



内堀知事とのテレビ会議の様子

教育行政への功績を評価

半澤美由紀さんが受賞

5月12日、福島県市町村教育委員会連絡協議会総会において、半澤美由紀さん(名入)が同協議会より表彰を受けました。多年にわたり教育委員として、町の教育行政の振興、発展に寄与された功績が認められたものです。教育委員の任期は4年間で、半澤さんは平成23年から務めており、現在3期目となります。



表彰状を手にする半澤美由紀さん

おいしいお米になるように

三島小学校田んぼの学校

三島小学校の田んぼの学校は5月27日、宮下ふれあい公園「びおたん」で行われ、3年生から6年生までの児童17名が田植えを体験しました。びおたんクラブの皆さんの指導のもと、児童たちはひざ下まで田んぼにつきながら丁寧に苗を植えていきました。9月の稲刈りまで除草作業などを実施しながら稲を管理し、収穫したお米は今秋に開催予定のおばあちゃんの味等で使用されます。



田植えを体験する三島小の児童たち

横断歩道は手をあげて

三島保育所交通安全教室

5月27日、三島保育所において交通安全教室が開催されました。三島駐在所の森建介所長より道路を歩く際の注意点などの講話がありました。続いて、子ども達は、外に出て実際に道路の歩き方や横断歩道のわたり方を勉強しました。先生に付き添われながら、大きく手を上げて横断歩道を渡り、交通ルールを守った通行を実践しました。



先生に付き添われながら交通ルールを学びました

花いっぱい運動をみんなで

文・写真 小島 純さん(宮下)

花いっぱい運動は5月16日、宮下地区(加藤善久区長)と荒屋敷地区(鈴木武彦区長)の協力を得て45名が参加し行われました。参加した皆さんは宮下活性化センター、宮下駅前、大善広場、宮下病院前のポケットパークにそれぞれ分かれ、花壇の整備と花植えに汗を流しました。マスクと軍手を着用し、出来る限り3密を避けながら久しぶりの作業に汗を流していました。新型コロナウイルス関連の暗いニュースが多い昨今ですが、きれいな花が皆さんの心の癒しになればと思います。



花植えの共同作業行われる

文・写真 角田伊一さん(川井)



5月23日、川井地区恒例の花植え共同作業が行われました。数年前より環境美化運動の一環として、国道、町道沿いに色とりどりの花を植え、花いっぱいの住環境づくりを続けています。今年は新型コロナウイルス感染拡大のおそれが幾分沈静化したところで、長谷川賢之区長の呼びかけに賛同した地区住民が参加し、除草、施肥などの作業をこなし、マリーゴールドなど色とりどりの花を移植しました。例年は作業終了後は集会所で茶話会を実施しましたが、今年は袋菓子を配り、昼前に解散となりました。

三島神社・宮昌寺周辺の清掃作業

文・写真 小島純さん(宮下)

宮昌寺護持会(栗城隆彦会長)と三島神社総代会(細堀清会長)は5月17日、それぞれの会員25名が参加し、宮昌寺本堂や観音堂、三島神社境内の草刈り作業を実施しました。会員の皆さんが協力し合いながら1時間ほどで作業が終了しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな行動や集会在制限されていますが、コロナウイルスが終息した後、宮昌寺と三島神社を訪れる方々が、気持ちよく参拝できるように、一生懸命作業に汗を流しました。



ボランティアこぶしの会～国道沿いのごみ拾い及び総会～

文・写真 佐久間絹江さん(滝原)



ボランティアこぶしの会の国道沿いのごみ拾い及び総会は、4月26日に実施されました。林業集会センターに集合し、2班に分かれ、地区内を通る国道沿いのごみ拾いを行い、生活ゴミから、鉄クズ、オイル缶など様々なゴミが集められました。その後、書面により令和元年度事業報告、歳入歳出決算及び令和2年度事業計画、歳入歳出予算が承認されました。昼食会は各自弁当を持ち帰り、解散となりました。

令和2年度宮下地区総会を開催

文・写真 小島 純さん(宮下)

令和2年度宮下地区総会は3月28日、宮下活性化センターにおいて開催されました。近藤勇彦区長が地区の1年を振り返りながらあいさつを述べ、来賓祝辞の後、議事に入りました。令和元年度の事業報告と決算、令和2年度の事業計画と収支予算が全会一致で承認されました。また、総会において令和2年度の区長が選任され加藤善久氏が新区長に承認されました。加藤区長から近藤前区長に感謝状が贈呈され、閉会となりました。



春の人足作業

文・写真 佐久間絹江さん(滝原)



春の人足作業は4月12日に行われました。13軒しかない滝原地区ですが、年に数回行われる人足には、普段は地区には住んでいない方々も参加し実施されます。今年は15人が参加し、地区の共用道路、駒形神社の境内及び多目的広場の整備を行いました。今年の冬は雪が少なかったため、倒木も少なく、作業も手際よく進みました。新型コロナウイルス感染防止のため、作業終了後の慰労会も簡素化して行い、次回の再会とお互いの安否を声かけして、早々に解散となりました。

桜は満開、でも花見の会は中止

文・写真 橋本光五郎さん(早戸)

今年も早戸の生活改善センターにある桜が4月26日満開になりました。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため、毎年開催していた「花見の会」は中止となりました。花見の会は、春になり地区の皆さんが全員集まる最初の行事であり、4月25日、26日の週末は天気にも恵まれていたので、残念ですが、桜は来年も咲きます。そう思って今年は過ぎていくしかないようです。しかし、このような社会状況の中で、地区内のコミュニケーション・親睦をどう図っていくのか、高齢者が多い地区だけに、難しさを感じています。



恒例の春の人足作業

文・写真 佐々木邦雄さん(松原)



恒例の春の人足作業は4月29日、35人が参加し行われました。春日神社境内の冬囲い取り外しと清掃作業及び地区内の町道の側溝清掃(土砂あげ等)を中心に進められました。各班に分かれ地区住民が段取りよく作業を進め、春の芽吹き始めた木々を見ながら気持ちの良い汗を流しました。また、今年も消防団松原班により仕上げの路面清掃、放水作業も行われ地区全体が綺麗になり、参加された皆さんは爽やかな気持ちで解散となりました。

地域おこし協力隊コーナー

Vol.2



やまぐち たいいちろう
山口 泰市郎さん
農業担当
桐の里産業(株)配属



1 今回ご紹介するのは、今年度で地域おこし協力隊3年目となり、先輩である山口さんの活動についてです。普段は町で生活していても活動が見えにくいいため、気になっている方も多いかと思います。今回はそんな山口さんの活動内容にスポットをあててみました。



昨年度までは稲作をメインに担当していましたが、今年度からは畑での作物栽培を担当しています。4月から本格的に畑の整備がはじまり、この日は、西方地区の沼田にある畑を耕していました。「探り探りだから難しい」と言っていた山口さんですが、いざ作業が始まれば、すごいスピードと正確さで見るとみるうちに畑ができあがりました。



畑の脇にはビニールハウスが3棟あり、そこで様々な作物の苗を育てたり、ジャンボインゲンの栽培もしています。ハウスの中にはジャンボインゲンが育ちやすいように、パイプ支柱を何本も設置しネットを張り、生長しやすいような環境が整えられています。4月末からスタートした取材ですが、種を植えてからあつという間にぐんぐん育ち、この記事を書いている5月末現在で、私の腰の高さを追い抜く勢いで生長を続けています。

3 今年、山口さんが担当する作物は、ジャンボインゲン・レタス・ヒラタケ・かぼちゃ・じゃがいも・さつまいも・長芋など様々な作物です。下の写真に植えてあるのは、じゃがいも・さつまいも・長芋です。種から発芽させ植えていくため、気温や水分等管理が大変なものばかりです。しかし、植えた当初は芽が一本も出ていなかったのに毎日一つ一つ丁寧に管理している山口さんのおかげで、今では一面緑になるほど成長しています。

1目印のない中、トラクターで正確に耕していきます **2**耕した畑に肥料をまき、じゃがいもの種芋を植えていきます **3**ハウス栽培の他、畑にもジャンボインゲンの苗が植えられています

こうして山口さんをはじめ、桐の里産業(株)の方々や農家の皆さんの努力が立派な作物となって出荷されていると思うと、食べ物に対する想いも変わってきます。取材をしながら、もう収穫の時期が楽しみになっている私と山口さんでした。



ジャガイモ、さつまいも、長芋が植えられた畑

町民記者通信

「棚田お田助オーナー」田植え行われる

文・写真 菅家壽一さん(間方)

5月24日、間方地区の宮ノ前において、町内のお田助隊11名が参加し、田植えが実施されました。今年はコロナウイルスの影響で町外からのオーナーの方々は参加できませんでした。高齢化等により、耕作されない水田が増え里山の景観も損なわれています。地区外の方々の力をお借りし、美しい景観を守り、自分で作ったお米やマコモダケを美味しく食べてもらおうと実施しています。また、この日は、マコモダケの活用を考えてくださっている方々も来ていただきました。今後は寄せ刈りや稲刈りや稲扱きも、多くの方にお田助けいただき実施します。



早戸本村の沼にオシドリ

文・写真 橋本光五郎さん(早戸)



昨年の「広報みしま7月号」で、早戸本村の菅蒲沼の「黄菅蒲」を紹介し、春の菅蒲沼にはカモやオシドリが飛来すると書きましたが、今年はずがいのオシドリが2組、隣接するイモリ池に来ているのを4月25日に見る事ができました。翌日には、つがいのカモも確認する事ができました。オシドリを見るのは、3年連続になります。毎日見られるわけではありませんが、新型コロナウイルスで外出の機会が無くなっている今年は特に、のんびりと日向ぼっこをしたり泳ぐ姿を見て癒されます。朝起きて「今日は来ているかな？」と窓から池を見るのが、ささやかな楽しみになっています。

地区への入り口をきれいに ～大登ロータリーの草刈り作業～

文・写真 小島 純さん(宮下)

宮下地区委員会(加藤善久会長)では5月20日、大登ロータリーの草刈り作業を行いました。「うつくしま道サポート制度活動」の一環として毎年実施しているもので、心配された雨も降らず委員の皆さんは久しぶりの作業に汗を流しました。作業終了後、アーチ三兄弟視点場に移動し、絶景ポイントの草刈り作業も行いました。一日も早く新型コロナウイルスが終息し、大勢のカメラマンが訪れること願いながら作業に取り組みました。



コスモス街道を目指して

文・写真 佐久間絹江さん(滝原)



ボランティアこぶしの会によるコスモスの種まきは5月24日に行われました。午前9時に11名が滝原林業活性化センターに集合し、地区入り口の国道252号沿い待避所と林業活性化センター脇の畑に種をまきました。1時間ほどで作業は終了し、秋風に揺れる綺麗なコスモスの花を夢見て、今後は除草作業を中心に地区住民が協力しながら実施していく予定です。

厚生労働省では、5月31日の世界禁煙デーに始まる一週間を「禁煙週間」として定め、喫煙による健康被害対策を強化しています。

たばこによる健康への影響をご存じですか？

- ①受動喫煙が原因で毎年1万5千人死亡
- ②肺の生活習慣病（COPD）
- ③歯周病のリスクは非喫煙者の4倍
- ④新型コロナウイルス肺炎重症化の最大の原因！！

あなたの息は大丈夫？

喫煙後30分は息から有害物質が出ています。喫煙者が吐き出した息（呼出煙）を吸うことも受動喫煙になります。

※ COPD（慢性閉塞性肺疾患）は、肺の生活習慣病といわれ、たばこの煙を長期間吸い続けることで肺の組織が壊れる病気です。息切れ、呼吸困難、せき、たんなどの症状が出ます。一度壊れた肺はもとには戻りません。

○禁煙をするメリット！

- ①健康面・・・心臓発作の可能性低下・循環機能改善・心疾患、脳梗塞、肺がんのリスク低下など
- ②金銭面・・・1日1箱（430円）で計算すると、1ヶ月で13,000円、1年で16万円、5年で80万円の節約になります。
- ③その他・・・肌が綺麗になる、食べ物がおいしく感じられるなど、メリットがたくさんあります！

～あなた自身とあなたの大切な人たちを守るため、ぜひこの機会に禁煙を！～
禁煙には、病院の禁煙外来の受診が有効です

町民センター図書コーナー「ゆめぽけっと」から図書のご案内

図書コーナー『ゆめぽけっと』利用時間
月～金 午前9時～午後9時 土・日・祝 午前9時～午後5時
※年末年始は閉館いたします。☎ 公民館 ☎ (48) 5599



サピエンス全史

ユ瓦尔・ノア・ハラリ：著
10万年前の地球には、少なくとも6つの異なるヒトの種が存在した。しかし、現代まで生き延びた人類種は、私たちホモ・サピエンスだけ。サバンナではひ弱な存在であった私たちの種が、なぜ生き延び、生態系に大きな影響を与える存在になったのか。人類史について詳しく学べる一冊。

ムゲンのi(アイ)

知念実希人：著
主人公は女医の識名愛衣。眠りから醒めない謎の病気の患者を3人受け持ち、混乱していた。あるとき、霊能力者である祖母の助言により、患者を目覚めさせるには、魂の救済をするしか方法はないと知る。愛衣は祖母から受け継いだ力を使い、魂の救済に挑む…



☆新着本

さよならの儀式
宮部みゆき：著

祝祭と予感
恩田陸：著

某
川上弘美：著

どうしても生きてる
朝井リョウ：著

町史編さん室だより

第53回

明治期における西方郵便局の開設と廃止、そして再開設

明治五年（一八七二）九月、全国的に郵便が取り扱われるようになり、西方では青木源九郎氏が郵便御用取扱人となりました。八年の「若松県一覽概表」によれば、当時大沼郡下には郵便局が十四あり、その一つとして西方郵便局の名があります。十三年（一八八〇）には、宮下にも郵便局が設置されました。

西方郵便局は郵便業務の現状を憂^{うれ}いていたのか、明治十八年（一八八五）に「郵便上改良意見建白書」なるものを「貴局」に申し立てています。文中では「貴局」とだけあり、どの局に出したのかは不明です。その建白書では具体的に不便利な事柄を挙げ、その改良意見を書いています。要約していくつか紹介すると、①高田局から西方局間の郵便物配達に日数がかかりすぎるので、その効率化についての提案、②当地方から野沢局への配達順序が宮下局↓西方局↓野沢局となっているが、只見川横断の必要があり、暴雨等による川の増水などで配達できない場合もあるため、宮下局を経由せず、直接西方局と野沢局間で脚夫を仕立てた方が利便性が向上するとの提案、③宮下局より川口局の路線は難所である「左ウツボ」があり、実際には高清水、水沼を通る道で配達を行っているので、西方局から川口局を配達の規定路線とした方が安全だといった提案です。

以上のような改良意見を発信する積極的な西方郵便局でしたが、十九年に事の経緯は不明ですが西方・野沢間の郵便事務上の路線を廃そうという動きが出てきました。その方針に反対する西方郵便局からの「意見書」の写しが役場にありました。「意見書」では西方・野沢間の路線によって北陸地方と当地方とで行われる商取引に関する郵便物を速やかに取り扱うことができると述べた上で、北陸地方からの郵便物を坂下、柳津を迂回^{うわい}させて当地方に届けるとの案は配達の遅延につながり、人民の利益にならないので反対するとしています。しかし、その意見は取り上げられることなく、二十年の四月には野沢・西方間の路線は廃され、距離にして三里で届いていた郵

便が、坂下経由の迂回路で十二里強となり、大変便の悪いものになりました。それだけでなく、同年十一月には西方郵便局を廃止し、宮下郵便局が業務を代わって行うことが決まりました。この決定に対し、両郵便局の間には只見川があり、その増水等によって渡し舟の運行が難しくなれば遅延が生じるため、不便になることは間違いないと、西方・名入・大石田・早戸の四ヶ村が連名で西方郵便局を廃止せず据^すえ置くように嘆願しています。しかし、その願いは聞き届けられず、西方郵便局は廃されたようで、福島県内の郵便局が掲載された二十一年の『福島県管内職員録』に、西方郵便局の名はありません。

その後のことは、会津の桐殖産に貢献^{こうしょく}した小松中正氏を顕彰^{けんしょう}するため昭和十五年（一九四〇）に刊行された『中正誌』に書かれています。『中正誌』によれば郵便局が廃止になったあと、郵便局開設運動が起こり、明治三十六年（一九〇三）に西方郵便受取所が設立、三十八年には三等局として郵便局に昇格しました。その時の郵便局長に中正氏が任ぜられたそうです。四十一年には電信が架設^{かせつ}、また当初は無集配の局でしたが、大正四年（一九一五）には集配事務も取り扱えるようになったといえます。

集配事務再開に関しては、大正二年頃、西方郵便局が通信局に集配人を設置したい旨の請願書を提出しようとしていたことが、隣村である西川村外二ヶ村組合村（後に宮下村）に遺^ひされた同年七月の文書からもうかがえます。

三島町史編さん室

ご家庭に古い文書・古い写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。☎ (52) 2165



会津坂下警察署からのお知らせ

なりすまし詐欺の被害防止

新型コロナウイルスに便乗した詐欺に注意!

給付金や助成金名目の詐欺が予想されます。
自治体職員などを名乗り

- ・手続きのため、ATMに行ってください。
- ・手数料を振り込んでください。
- ・通帳やキャッシュカードを郵送してください。

などの言葉があったら詐欺です。
また、マスクや消毒液などの送りつけ料金を請求する悪質商法にも気をつけてください。

不法就労・不法滞在の防止にご協力を!

- 外国人労働者を雇用する場合は、在留カード等を確認して、就労資格の有無を確認してください。
- 不法就労に当たる外国人労働者を雇い入れた場合には、不法就労した外国人だけでなく、不法就労させた事業主も処罰の対象になります。

☎会津坂下警察署 ☎0242 (83) 3451

街頭犯罪発生件数 (4月30日現在)

区分	管内	三島町
空き巣		
忍込み		
事務所荒し		
自販機ねらい		
車上ねらい	1	
強制わいせつ		
街頭犯罪合計	1	0
その他刑法犯等	9	1
全刑法犯	10	1

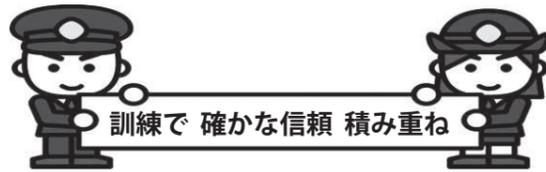
○管内では、車上狙いや車庫タイヤが盗まれる窃盗事件が増加しています。鍵のかかる倉庫などに保管し盗難被害防止に努めてください。

その他刑法犯等には、暴行・傷害・万引き・詐欺・器物損壊などの犯罪発生件数が含まれます。
※上記発生件数は、令和2年1月1日からの累計数となっています。



消防署からのお知らせ

令和2年度「危険物安全週間」の実施について



訓練で 確かな信頼 積み重ね

実施期間

令和2年6月7日⑩～6月13日⑫までの7日間

危険物とは・・・

- ①火災発生の危険性が大きいもの
- ②火災拡大の危険性が大きいもの
- ③消火の困難性が高いもの

ガソリン、灯油、軽油などの危険物を正しく保管・取扱いし事故を未然に防ぎましょう!

まだ暑さに身体が慣れていないこの季節は **熱中症** に注意しましょう!
めまい、吐き気、頭痛、筋肉の痙攣は熱中症のサインです!
こまめな水分補給や涼しい場所での作業を心がけ熱中症対策に努めましょう!



三島守

☎会津坂下消防署 三島出張所
—火事・救急・救助は— 電話 (52) 3032
119番まで FAX (52) 3033

環境研だより 第23回

研究から体験まで～環境創造センターのご紹介



三島町のみなさん、こんにちは。

今回は国立環境研究所と福島支部についてご紹介させていただきましたが、今回は我々、福島支部が入居している施設、「環境創造センター」についてご紹介いたします。

環境創造センターは前例のない原子力災害からの「環境回復と創造」に向けた取組を行う総合的な拠点として、福島県三春町に平成28年に設置されました。

センターでは平成27年4月に締結した「環境創造センターにおける連携協力に関する基本協定」に基づき、福島県、日本原子力研究開発機構(JAEA)、そして国立環境研究所の3機関が連携協力しています。建物は大きく「本館」「研究棟」「交流棟」の3つに分かれており、国立環境研究所福島支部はこの中の「研究棟」に入居しています。



上空から撮影した環境創造センター研究棟

研究棟に入居している福島支部の中には「汚染廃棄物管理研究室」「環境影響評価研究室」「地域環境創生研究室」「災害環境管理戦略研究室」といった研究室があり、三島町で研究させていただいている我々は地域環境創生研究室になります。また、研究棟には我々のほかにも日本原子力研究開発機構(JAEA)が入居しており、主に放射性物質による環境汚染を回復させるための調査・研究をおこなっています。

研究棟とは反対の位置にある交流棟(コミュタン福島)は、福島県の放射線・環境問題について学習することができる施設で、自由に見学することができます。2011年3月に発生した東日本大震災によ

て起きた、東京電力福島第一原子力発電所の事故直後の様子を模型で再現していたり、福島が現在までにどれくらい回復しているのかを数値で示していたりと、復興へ向かう福島の歩みを知ることができます。

また、放射線そのもののことや、再生可能エネルギーなどについて体験型の展示物やゲーム等を使ってわかりやすく、楽しく学ぶこともできます。



大きな画面を使って遊びながら学べる展示物も

さらに、世界に2台しかないという、360度全方位に映像を映し出す、全球型のドームシアターがあり、そこで放射線の話や福島の自然などを紹介する番組が上映されています。お子さんから大人まで、そして県内だけでなく県外の方など、今までにも多くの方が足を運んでいる施設です。

コミュタン福島では、事前連絡をすれば展示物について係の方に案内していただけるので、遊びに行く際はぜひ事前連絡をしてから訪れてみてください。

環境創造センター『コミュタンふくしま』

HP:<https://www.com-fukushima.jp/>
電話:0247 (61) 5721

<筆者紹介>

常盤 達彦(ときわ たつひこ)

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、環境研でも在宅勤務に移行しています。家にずっといると運動不足(元々ですが...)なので運動できるゲームで家の中で運動しています。



☎国立環境研究所福島支部
地域環境創生研究室 ☎0247 (61) 6572



県立宮下病院長
横山秀二

県立宮下病院より 新院長のごあいさつ

4月より宮下病院の院長に就任いたしました。出身は会津美里町（旧会津高田町）です。これまで大学病院をはじめ県内の病院で研修を重ね、会津医療センターの開院を機に会津に戻りましたが、あらためて会津の良さを実感しております。専門分野は耳鼻咽喉科で、脳と眼を除いた頭の

先から首の付け根までの病気が担当になります。小児から高齢者まで、幅広い年齢の方々の病気に接してきた経験を活かしながら、地域の方々の健康維持に努めていきたいと思っております。引き続き宮下病院共々、ご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

Information

東北電力からのお願い

発電所やダムから水を流したときの水難事故を防ぐため、各所に注意札を立てております。水を流すときは、スピーカーやサイレンによってお知らせしますので河原にいる人は危険ですから、すぐ安全な場所に移動されますようお願いいたします。

次のときにスピーカーをならします

- ① ダムから初めて水を流す約 10 分前
- ② 発電所から初めて水を流す約 10 分前
- ③ 発電所の出力を増やし水を多く流すとき

【放送内容】
「今から川の水が急に増えます。河原にいる人は危険ですから、すぐ上がってください」
※毎日9時にスピーカーの音を実際に鳴らして、装置の点検を行っております。

次のときにスピーカーをならします

- ①ダムの流量が毎秒 1,000m³に達したとき
- ②ダムの流量が毎秒 2,000m³（洪水量）に達したとき
- ③ダムの流量が洪水量をオーバー後、毎秒 1,000m³増加毎

【警報内容】

サイレン	10秒	サイレン	10秒	サイレン
■■■■■	休み	■■■■■	休み	■■■■■
	50秒		50秒	

《河川への不法投棄はやめましょう！！》

<問い合わせ> 東北電力株式会社 水力運用センター (Tel 0242-26-6862)

只見川ダム管理所 (Tel 0241-52-3422)

阿賀野川水系ダムの状況を当社 HP から閲覧出来ます。

東北電力 HP — 災害に備えて — 阿賀野川水系ダム情報

<https://www.tohoku-epco.co.jp/dam/>

多重債務・貸金業に関する相談窓口について

財務省福島財務事務所では、返済しきれないほどの借金を抱え、お悩みの方々からの相談に応じています。借金の状況をお聞きし、必要に応じて弁護士・司法書士などの専門家に引継ぎを行います。秘密厳守、相談無料です。お気軽にご相談ください。

また、国や県の登録を受けずに貸金業を営む、いわゆる「ヤミ金融」業者には十分ご注意ください。ご利用されている貸金業者の登録状況に関する問い合わせや不正に利用されている預貯金口座に関する相談も受け付けています。

○相談窓口 財務省福島財務事務所 理財課
福島市松木町13-2

○受付時間 月曜日～金曜日（祝日、年末年始除く）
午前8時30分～正午・午後1時～午後4時30分

○電話 024（553）0064
（多重債務者相談窓口専用）

個人事業税の納付をお忘れなく！

個人事業税は、県内に事務所・事業所を設けて物品販売や不動産貸付業など、一定の事業を営んでいる方に納めていただく県の税金です。会津地方振興局県税部から送付される納税通知書により、年税額を8月（第1期分）と11月（第2期分）の2回に分けて納めることになっております。ただし、年税額が1万円以下の場合には、8月（第1期分）に一括して納めることとなります。

●福島財務事務所 理財課 ☎024（535）0303

●会津地方振興局 県税部 ☎0242（29）5251

社会福祉協議会より

サロンのご案内

- ▼高清水・小山いきいきサロン
6月16日（火）10時～ 高清水集会所
- ▼滝谷和楽塾
6月18日（木）10時～ 滝谷集会所
- ▼大登サロン
6月19日（金）13時30分～ 大登生活改善センター
- ▼川井友愛サロン
6月22日（月）10時～ 川井集会所
- ▼ひまわりサロン
6月25日（木）10時～ 町民センター
- ▼浅岐あつたかサロン
6月26日（金）10時～ 浅岐集会所
- ▼サロンないり
6月29日（月）10時～ 名入集会所
- ▼間方いきいきクラブ
6月30日（火）10時～ 間方集会所
- ▼検原はつらつクラブ
7月3日（金）10時～ 検原集会所
- ▼大石田友遊サロン
7月6日（月）10時～ 大石田集会所

●社会福祉協議会 ☎（52）3344

6月の納税【納期限 6月30日】

▼町県民税（第1期）

●町民課町民係 ☎（48）5555

忘れずにお納めください

ご寄附ありがとうございました

町へのご寄附（ふるさと納税）
河野 廣 様（東京都）
角田 トメノ 様（伊達市）
町社会福祉協議会へのご寄附
ご遺志によるもの

渡部 彦一 様（大石田）

お悔み申し上げます

渡部 俊子（60才・大石田）

※掲載を希望される方もされない方も、各種手続き時に『広報みしま掲載同意書』に記載事項を記入していただきます。ご協力をお願いいたします。

●特命担当課 ☎（48）5232

町の人口と世帯 5月1日現在

人口	1,563	-8	出生	0
男	773	-5	死亡	4
女	790	-3	転入	6
世帯	750	+2	転出	10

③住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

5月のみしま

雪国の長い冬を終え、草木が一気に生命力を増す5月。目にする景色も、気づけばいつの間にか緑が濃くなっています。

5月は、三島でも田植え作業が各地区で見られ、町の木の桐は例年よりも少し開花が早く、中旬からつぼみが色づきはじめ、下旬には桐の里は紫に染まりました。



満開となった桐の花 (5月22日)



第二只見川橋梁を通る只見線



田植えも最盛期を迎えました

町長日記

「視点・視野について「コロナ禍から学ぶ」」

No. 57

本部長に町長、副本部長に副町長と教
育長、本部長に8名の課長による「三島
町新型コロナウイルス感染症対策本部」
を2月25日に立ち上げ、その後「特措法
対策本部」として広域消防三島出張所長
にも参加頂き、町民の皆様の感染予防対
策や経済対策等を実施してきました。

会津管内ではいち早く対策本部を立ち
上げ、3本の行動指針を決定しました。
1本目の指針は「感染症予防・感染した
場合の組織の対応」、2本目の指針は「高
齢者を含めた町民の心のケア」、3本目
の指針は「経済対策への対応」、この3
点を中心に議論してきました。

100年前(大正7年)スペイン風邪
の猛威が世界中を席卷し、世界はもちろ
ん、日本においても第1の波、しばらく
して第2、第3の波が押し寄せ、多くの
方が感染し死者も多数出たと、福島民友
新聞の一面に取り上げられ、今回の新型
コロナウイルスは、21世紀型パンデミック
であると、5月25日の同紙に掲載され
ていました。

対策本部は議論する場であり、且つ決
定する場でもあります。新型コロナウイルス
感染症防止のために議論を重ね、対策
を決定するため、チーム三島としての職
員の結束力に感動しました。

また、組織が存在する根本の考えを常
に再考しながら、組織のためでなく、町

民の皆さんの、安心安全な町づくりが基
本にあり、組織は手段であるという方向
性を本部長と共有しながら進めてきたと
ころです。「チーム三島」としての意識
の共有化が、議論の過程で相互に認識で
きたことが、将来につながる大きな成果
であると考えます。

町民の皆さんには、様々なお願いを
し、非常にストレスが溜まったと思いま
すが、100年に1度と言われる大感染
であり、第2波・第3波がいつ来るか分
かりません。町も今後も気を抜くことな
く頑張っていきます。

チーム三島として、各職員の議論を聞
きながら、各人の視点や視野を尊重しな
がら意見を集約する大切さを学んだ対策
本部でもありました。

ローカルな地域に住む我々が、コロナ
禍後の世界をどう描いていくのか、一人
一人に問われているのではないかと考えま
す。成長や発展社会から持続・循環型の
住民生活への価値の転換が必要ではない
かと感じる「現在」であります。

最後に、新型コロナウイルス対策のた
め、町内外から多くのマスクや義援金の
ご寄付に心より感謝申し上げます。

また、ご多忙の中、対策本部に参加し、
ご指導をいただきました広域消防三島出
張所長に感謝申し上げます。

三島町長 矢澤 源成